

大型砕氷客船カピタン・フレブニコフ号で航く 夢の北東航路探検クルーズ 26日間

夢の北東航路探検クルーズでは、通常では行けない地球の果てに皆様をご案内いたします。
この伝説的な北東航路では、ロシア北極の野生生物や先住民、海水に覆われた海など
極北の素晴らしさを堪能します。極東からベーリング海峡を越えて、
ヨーロッパへの北東航路は、夢と浪漫と驚異の世界にあふれています。



探検クルーズのハイライト

- 夢の北東航路を壮大なスケールでご案内いたします。
- ホッキョクグマやセイウチなど多くの野生生物の楽園で世界遺産のウランゲリ島も訪れます。
- 滅多に行くことが出来ないロシア北極の島々を訪れる感動あふれる航海です。

● 旅行開始日～終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2016年7月10日(日)～8月4日(木)	26日間	カピタン・フレブニコフ

- 集合地/解散地： アンカレッジ/ロングイヤー・ビーエン
- 食事条件： 朝食24回、昼食22回、夕食23回
- 利用ホテル： アンカレッジ/ヒルトン・アンカレッジ

● クルーズ料金(大人/お一人様)

※単位：米ドル(US\$)

カピタン・フレブニコフ	集合地/アンカレッジ 解散地/ロングイヤー・ビーエン
旅行開始日	7月10日(日)
旅行終了日	8月4日(木)
期間	26日間
客室タイプ	
トリプル(3人部屋)	29,995
ツイン	39,995
スイート	45,995
コーナー・スイート	51,995
トランスファー・パッケージ	1,950
アドベンチャー・オプション	ヘリコプター遊覧、ハイキング

※トランスファー・パッケージは、クルーズ料金に含まれておりません。別途お支払頂きます。
※相部屋：トリプル、ツインの客室タイプに限り同一料金で相部屋の予約を承ります。
※トリプル客室のベッドは、2段ベッドとソファベッドです。

■トランスファー・パッケージ(US\$ 1,950)には以下のものが含まれています。

- (1)1日目、アンカレッジでの宿泊ホテル(朝食付)
- (2)2日目、「アンカレッジのホテルから空港まで」及び「アナディリ空港から港まで」の送迎
- (3)2日目、アンカレッジからアナディリまでの航空料金
- (4)26日目、「ロングイヤー・ビーエンの港から空港まで」及び「港から町の広場まで」の送迎

■スケジュール

日次	日程	食事 朝 昼 夕	宿泊
1	7/10(日) 午後 アンカレッジ到着後、 クオーク社指定のホテルに宿泊 午後6時から出発前のオリエンテーション		アンカレッジ泊
2	7/11(月) 朝 空路、チャーター機にて ロシアのアナディリへ(所要/約3時間) (国際日付変更線通過)	H	機中泊
3	7/12(火) 午後 午後 アナディリ着後、入国・通関手続 大型砕氷船「カピタン・フレブニコフ」に乗船 アナディリ出港		船中泊
4	7/13(水) 終日 チュクチ半島観光	○ ○ ○	船中泊
5	7/14(木) 終日 チュクチ半島観光	○ ○ ○	船中泊
6	7/15(金) 終日 ベーリング海峡通過	○ ○ ○	船中泊
7	7/16(土) 終日 ウランゲリ島観光	○ ○ ○	船中泊
8	7/17(日) 終日 ウランゲリ島観光	○ ○ ○	船中泊
9	7/18(月) 終日 東シベリア海クルーズ	○ ○ ○	船中泊
10	7/19(火) 終日 東シベリア海クルーズ	○ ○ ○	船中泊
11	7/20(水) 終日 東シベリア海クルーズ	○ ○ ○	船中泊
12	7/21(木) 終日 ニュー・シベリア諸島観光	○ ○ ○	船中泊
13	7/22(金) 終日 ニュー・シベリア諸島観光	○ ○ ○	船中泊
14	7/23(土) 終日 ニュー・シベリア諸島観光	○ ○ ○	船中泊
15	7/24(日) 終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
16	7/25(月) 終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
17	7/26(火) 終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
18	7/27(水) 終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
19	7/28(木) 終日 ノヴァヤゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
20	7/29(金) 終日 ノヴァヤゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
21	7/30(土) 終日 ノヴァヤゼムリヤ観光	○ ○ ○	船中泊
22	7/31(日) 終日 フランツヨーゼフ諸島観光	○ ○ ○	船中泊
23	8/1(月) 終日 フランツヨーゼフ諸島観光	○ ○ ○	船中泊
24	8/2(火) 終日 バレンツ海クルーズ	○ ○ ○	船中泊
25	8/3(水) 終日 バレンツ海クルーズ	○ ○ ○	船中泊
26	8/4(木) 朝 ロングイヤー・ビーエン入港/下船	○	

(備考) 食事欄：「H=ホテルでの食事、○=船内食」を表します。

● 詳細日程

第1日目 アンカレッジに到着

アンカレッジ到着後、クオーク社指定のホテルに宿泊。
(注)午後6時から出発前のオリエンテーションを予定しています。時間に間に合うようホテルにご到着ください。

第2日目 アンカレッジ発→(国際日付変更線通過)→

朝、チャーター機でロシアのアナディリへ。途中、**国際日付変更線通過**(所要:約3時間)

第3日目 →アナディリ着/乗船/出港

午後、ロシアのアナディリに到着。着後、大型砕氷船、カピタン・フレブニコフに乗船。
夕刻、アナディリから北極旅行&クルーズに出港します。

第4～5日目 チュクチ半島観光

船内では砕氷船での北東航路探検クルーズを記念する**北極講座**が開講され、ロシア極東のチュクチ半島に着く頃には**先住民の文化についての講座**も開催されます。**ウエレン**の小さな集落ではセイウチの牙彫刻を鑑賞。**パフィン島**では、ゾディアック・ボートで**2種類のツノメドリを**観察します。イティグラン島には、昔、平地に突き刺された鯨のあばら骨が今でも「鯨骨街道」として残っています。今日最後の陸上は**ノヴォイェ・チャプリノ**です。住民が民族衣装でトナカイの投げ縄やレスリングなどを見せてくれるでしょう。

第6日目 ベーリング海峡通過

ベーリング海峡は太平洋と北極海の一部であるチュクチ海をつないでいます。北に向かい白夜の北極圏内に入ります。このあたりでは、暗闇の

ない昼間が37日間も続きます。

第7～8日目 ウランゲリ島観光

デロン海峡を航海すると厚い海水に遭遇するかもしれません。天候が許せば**イクスペディション・リーダー**と船長は皆様に1m位の厚さの海水を割りながら進むフレブニコフを上空からご覧いただけるよう**ヘリコプター**を飛ばすでしょう。多彩な植物と渡り鳥の繁殖地として**ユネスコの世界自然遺産**に指定されている**ウランゲリ島**に上陸を予定しています。ジャコウウシの数が多いの

第9～11日目 東シベリア海クルーズ

カピタン・フレブニコフはニュー・シベリア諸島に向けて東シベリア海の氷海を進みます。途中、通称ベア島と呼ばれるメドヴェジ島を通過します。周りの景色をお楽しみください。

第12～14日目 ニュー・シベリア諸島観光

この遠隔地の古代の野営地跡を探索します。視界が良ければヨーロッパ大陸の北端をご覧いただけるかもしれません。この諸島周辺では**ホッキョクグマ**がよく見られます。

第15～18日目 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光

北極で最も行きにくい諸島は逆に北東航路の中のハイライトでもあります。この諸島は船にエンジンが装備されるまでの長い間、北極海を通航しようとした多くの試みを退けてきました。私達は**ゾディアック・ボート**と**ヘリコプター**を使って探訪します。

ロシアの極地には、トナカイの放牧を主な糧としている2つの**先住民**がいます。**チュクチ**と**ツンドラ・ネッツ**です。チュクチ人はチュクチ半島を中心に住み、ツンドラ・ネッツ人はタイミル半島から白海までの一帯に住んでいます。私達はトナカ

イの群れを追って移動するこれら**遊牧民のキャンプ地**を訪ねる予定です。

第19～21日目 ノヴァヤゼムリヤ観光

「新しい土地」という意味の**ノヴァヤゼムリヤ**は2つの主な島と大陸に近い海域にある小島群から成り立っています。ここには**ロシア北極で最古の現役観測基地**があります。**ホッキョクギツネ**、**ホッキョクグマ**、**レミング**そして**鳥類**なども探しましょう。

第22～23日目 フランツヨーゼフ諸島観光

北極点から緯度にしてわずか10度南にあるのがヨーロッパ最北の地**フランツヨーゼフ諸島**です。**ホッキョクグマ**と**セイウチ**の生息地でもあります。フローラ岬では三つの探検隊の遺跡を、条件が良ければ**ゾディアック・ボート**で海鳥が営巣する断崖下をクルーズしてみます。**ヘリコプター**でしか上陸できないような島にも上陸する予定です。

第24～25日目 バレンツ海クルーズ

氷河に覆われた島々や美しい景色を見ながらバレンツ海をスヴァールバル諸島に向けて航海します。

第26日目 ロングイヤー・ビーエンに入港/下船

感動的な北極旅行&クルーズは、ロングイヤー・ビーエン入港で終了します。午前、ロングイヤー・ビーエンに入港します。イクスペディション・スタッフに別れを告げて下船です。下船後、空港へお送りいたします。



知っていましたか?

夏のわずかな期間以外、とても通り抜けられない大量の海水のため、最初に北東航路を通過するまでには何度も挑戦が繰り返されました。1878～79年にスウェーデンの地質学者アドルフ・エリック・ノルデンショルド男爵率いる探検隊が最初に全行程通過しました。

